

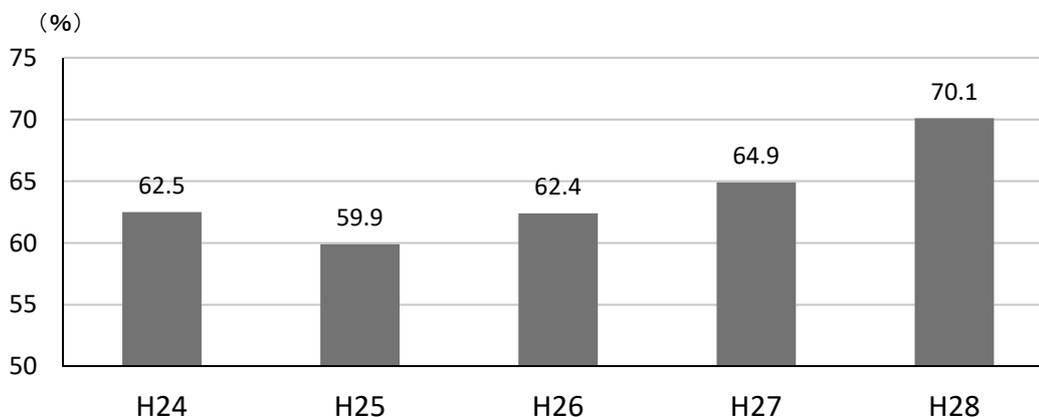
7 潤いと感動をもたらす文化とスポーツの振興

(1) 文化芸術の振興

現状と課題

- 子どもたちが質の高い文化芸術に触れる機会を充実させるとともに、高齢者、障がい者などの誰もが、等しく文化芸術に親しむ機会を拡大する必要があります。
- 県民の良好な環境での創作発表活動や鑑賞のため、県文化施設を適切に維持管理する必要があります。
- 唯一の県立美術館である信濃美術館が、県民誰もが美術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、豊かな心を育むとともに、自らの隠れた才能を発見・開発する機会を提供する、開かれた学びの場として機能することが求められています。
- 引き続き「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」などを通じた国際的な文化交流を進めるとともに、オリンピックを機に本県の文化芸術の世界に向けた発信の一層の充実が求められています。
- 今後の長野県の文化芸術を担う、若手芸術家の育成を進めていく必要があります。

図7-(1) 過去1年間に文化芸術活動（鑑賞含む）を行った人の割合の推移



県政モニター調査

目指す成果

- ◆ 優れた文化芸術の鑑賞機会や創作活動の場を広く提供し、人生を楽しむことができる環境を整備します。

主な施策の展開

文化芸術を振興するために、次のような取組を進めます。

① 生涯にわたり文化芸術を楽しみ、学ぶ環境づくり

- 児童生徒の文化芸術に対する関心を高め、感性を育むため、優れた文化芸術に触れる機会の充実、伝統文化の継承と創作活動など、学校における文化活動を推進します。

② 文化芸術を創る人材の育成

- 本県ゆかりの芸術家や今後の活躍が期待される若手芸術家の活動を支援します。

③ 誰もが文化芸術に参加できる機会の拡大

- 優れた文化芸術の鑑賞機会や県民の創作活動・発表の場を広く提供し、県民の自主的・主体的な文化芸術活動を促進します。
- 障がい者による文化芸術の振興を図るため、障がい者の優れた芸術作品の展示等による発表・鑑賞機会の提供を図ります。
- 県民が良好な環境で創作発表活動や鑑賞ができるよう、県文化施設の適切な維持管理を行います。
- 全面改築する信濃美術館が、美術による学びの場を提供できるよう整備を進めます。

④ 文化芸術による地域間交流・国際交流の拡大

- 「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」や県民文化会館とウィーン楽友協会との姉妹提携事業などを通じ、行政、地域、住民など各レベルでの国際的な文化交流を推進するとともに、オリンピック文化プログラム等を通じて本県の文化芸術を世界に向けて発信します。

⑤ 文化芸術を活用した地域社会・地域経済等の活性化

- 文化芸術分野と、産業、観光、福祉、教育等の分野との連携を推進し、連携事業の展開や広域的な活動等を推進します。

⑥ 第42回全国高等学校総合文化祭（2018 信州総文祭）の開催

- 文化芸術活動により県内高校生の主体性・多様性・協調性を育むため、2018年8月に、第42回全国高等学校総合文化祭（2018 信州総文祭）を開催します。
- 高等学校文化連盟と連携し、文化芸術活動をしている高校生が一堂に会し、日頃の成果を発表し交流を深める機会を提供します。



2018 信州総文祭プレ大会総合開会式
(生徒実行委員長メッセージ)

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
県立文化会館ホール利用率	67.3% (2016 年度)	70.0% (2022 年度)	文化政策課調べ
文化芸術活動に参加した人の割合	70.1% (2016 年度)	72.5% (2022 年度)	県政モニター調査

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する 2023 年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
セイジ・オザワ 松本フェスティバル 鑑賞者数	85,524 人 (2017 年度)	国内外からの鑑賞者 数が例年一定規模あ ること。	文化政策課調べ
高校生の全国大会・ブロック大会出場 文化系クラブ数	19 (2017 年度)	高校生の全国大会・ ブロック大会出場文 化系クラブ数が増加 していくこと。	教学指導課調べ

特色ある取組

文化部のインターハイ「信州総文祭2018」

平成30年8月、「2018信州総文祭」を開催。文化芸術活動を通じた多くの人との1つ1つの出会いにより、高校生が成長していきます。

全国高等学校総合文化祭は文化部のインターハイともいわれ、全国あるいは海外から約2万人の高校生が参加する高校生最大の文化芸術の祭典です。

昭和52年の第1回大会（千葉県開催）以降、毎年全国各地で開催されており、平成30年8月、第42回目となる大会（2018信州総文祭）を長野県で初めて開催。

この大会最大の特徴は、高校生が学校という枠を超え、同世代の仲間とともに長野県の今を見つめつつ企画を考え、手づくりで運営を行うことです。

この活動そのものが、自分たちの暮らす長野県のすばらしさを再認識し、そして、主体性や協働性等を育む「学び」の場となっています。

「2018信州総文祭」は、高校生が自分とは違う個性と熱い思いに出会い、自らが活動し、一層成長するための1つのステージでもあります。



生徒実行委員会及び専門部生徒部会
合同結成式